

(2016) に示された類似種との区別点に基づき、オスの触角、オスの交尾器、オスの後基節の隆起線列、前胸腹板突起の形状を確認した。

南西諸島産の個体との比較により、石川県産の個体には若干の形態的な差異が見られた。形態的な差異が確認されたのは、オスの触角および前翅の光沢で、触角は、石川県産の個体では南西諸島産より顕著に肥大(図2, 3)。前翅は、石川県産の個体において光沢が強い傾向が見られた。一方で、オスの交尾器、オスの後基節の隆起線列、前胸腹板突起の形状は南西諸島産の個体との間に大きな差が見られなかった。以上の検視結果から、いくらかの形態差が認められるものの、石川県産の個体群もサメハダと同種であると判断した。

今回検視した石川県産のマルケシと同定されていた標本の中にマルケシは確認されず、全ての個体がサメハダであった。県内産の全ての産地の標本を確認できてはいないが、既知記録の大半が本種であったことは特筆すべき点である。

本報告により、南西諸島だけではなく本州にも本種が分布することが明らかになった。これまで記録されていた南西諸島から大きく離れた石川県で本種が記録されたことから、本州産、四国産、九州産のマルケシの記録についても再検討する必要があると考えられる。また、マルケシおよびコ

マルケシは、「環境省版レッドデータブック」では準絶滅危惧 (NT) に選定されており(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015), この情報源には本種の記録も含まれている可能性がある。これら2種と同様に、本種も希少種である可能性が考えられる。以上のことから、今後の課題として、本種の形態に関して変異幅を明らかにすること、3種の正確な分布情報の蓄積が望まれる。

引用文献

- 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. さやばねニューシリーズ, (21): 46-47.
- 鴨池昆虫調査研究会・財団法人日本野鳥の会国際センター・財団法人サンクチュアリセンター, 1997. 片野鴨池昆虫調査報告書. 25pp. 財団法人日本野鳥の会.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014 — 日本の絶滅のおそれのある野生生物 — 5 昆虫類. 509pp. 株式会社ぎょうせい.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版.
- 富沢 章, 2008. 加賀南部の水生昆虫 I. 小松市立博物館研究紀要, (44): 1-12.
- 富沢 章・吉道俊一・中田勝之, 2011. 舩倉島・七ツ島の昆虫相. 能登 舩倉島・七ツ島の自然環境 (2008 ~ 2010 年), pp. 197-223. 舩倉島・七ツ島自然環境調査団.
- 富沢 章, 2013. 2012 年における河北潟の水生昆虫調査結果. 河北潟総合研究, (16): 1-6.

(2016 年 6 月 4 日受領, 2016 年 9 月 4 日受理)

【短報】福岡県大牟田市でヨツモンカメノコハムシを確認

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg) は、1990 年代後半から本州、四国、九州での分布拡大が著しく、九州でも各県に広がっている。福岡県ではすでに広域で記録されているものの、その記録は北部に集中していた(小林, 2013, 2014) が、近年になって南部に分布を拡大している

と考えられる。筆者は、これまで記録がなかった福岡県南部の大牟田市において本種の生息を確認したので記録する。いっぽう、福岡県の南にある熊本県からは清水(2011)により既に生息が確認されている。

成虫(約 70 個体)、蛹(約 10 個体)、幼虫(約 10 個体)、大牟田市橘および大牟田市甘木, 2. I. 2016, 吉富博之採集。

両地点は 500 m ほど離れており、いずれでもノ



図1-2. ヨツモンカメノコハムシ. 1, 加害状況; 2, 蛹.

アサガオ *Ipomoea indica* を激しく加害していた (図1). 生息状況から考えて, 数年前には既に当地域に侵入していた可能性がある. 興味深い点として, 成虫は気温が低くても (当日は手元の気温計で4°Cであった) 葉上にとまって摂食活動を行っており, 採集するために手を伸ばすと飛翔せずにはぼろっと葉上から落ちる行動が観察された (他地点での観察例では, 春季から秋季は飛翔して逃げるが多かった). また, 成虫以外にも幼虫や蛹 (図2) も確認され, 一部の成虫は採集時には体が柔らかいいわゆるテネラルな状態であった. 以上のことから, 本生息地では本種は冬季も休眠せずに活動しており, ライフサイクルもだらだらしたものであることが予想される.

なお, 清水 (2012) によりユアサアシプトコバチ *Brachymeria inermis* (Fonscolombe, 1840) が本種の幼虫に寄生したことが報告されているが, 今回得られた幼虫の飼育では, コバチ類に寄生された個体は確認されなかった.

末筆ながら, 本種の福岡県における記録をご教示頂いた小林修司氏にお礼申し上げる.

引用文献

- 小林修司, 2013. 福岡県でのヨツモンカメノコハムシの記録. KORASANA, (81): 22.
 小林修司, 2014. 福岡県でのヨツモンカメノコハムシの追加記録. KORASANA, (82): 53.
 清水 稔, 2011. 熊本市で採集されたヨツモンカメノコハムシ. 熊本博物館館報, (23): 83.
 清水 稔, 2012. ユアサアシプトコバチの新宿主ヨツモンカメノコハムシ. 熊本博物館館報, (24): 128-129.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)

【短報】東京都小平市でトウキョウトラカミキリを採集

トウキョウトラカミキリ *Chlorophorus yedoensis* (Kano, 1933) は, 一般に分布が局所的ながら日本海側では少なくない. しかし基準産地が「Tokyo」で種名が「yedoensis」とされるにも関わらず (Kano, 1933), 原記載以降の東京都の分布情報は, ウェブサイト上に写真とともに掲載された「東大和市蔵敷 (狭山丘陵), 武蔵村山市~埼玉県所沢市周辺では春にしばしば見かける」との非公式な報告 (星谷, 2013) があるのみであった. しかし, 2015年4月12日に東京都国分寺市で本種が採集され (和田, 2015), 北多摩の近隣諸地域からの再発見が期待されていた.

筆者は, 東京都小平市にある鷹の台駅から朝鮮大学校までの玉川上水沿いを通勤のために歩きながら, 地上に落ちたクヌギやコナラの枯死木を拾い, それを衣装ケース内で管理していた. 今春になって, その食害材から本種1頭が羽化脱出したため, 東京都における追加記録としてここに報告する.

1♂, 東京都小平市小川町 (玉川上水), 2015年10月3日材採取, 2016年3月30日羽化脱出, 韓昌道採集・保管. 寄主植物: コナラ.

本個体がコナラの枯死木から羽化脱出したことから, トウキョウトラカミキリは少ないながらも玉川上水沿いに定着していると推測される. 今後入念な調査を行うことで, 東京都における本種の分布状況を把握していきたい.

今回の発見にあたり, 有益な情報を提供して頂くとともに, 本報告を勧められた新里達也博士, および玉川上水の自然保護に関して関心を与えてくださったリー智子氏に心から感謝する.

引用文献

- Kano, T., 1933. New and unrecorded Longicorn-Beetles from Japan and adjacent Territories II. Kontyû, Tokyo, 7: 132-138.
 和田武久, 2015. トウキョウトラカミキリを東京都国分寺市で採集. 月刊むし, (533): 58.
 星谷 仁, 2013. 個人ホームページ. URL <http://blogs.yahoo.co.jp/ho4ta214/archive/2013/03/24> (2013年3月24日アクセス)

(韓昌道 187-8560 小平市小川町 1-700 朝鮮大学校 体育学部)



図1. 東京都小平市小川町のコナラ枯死材から羽脱したトウキョウトラカミキリ♂.